

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1298900083		
法人名	医療法人社団 寿光会		
事業所名	グループホームいきいきの家香取		
所在地	千葉県香取市玉造1-4-1		
自己評価作成日	平成26年 2月25日	評価結果市町村受理日	平成26年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.pho
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	平成 26 年 3 月 10 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

木造平屋建てで、施設内はバリアフリーになっております。リビングには大きな窓があり、四季を感じることでできる田んぼを見渡すことができます。近隣にはスーパー、ドラッグストアがありご自分で買い物に行くことができます。
毎週訪問診療・訪問看護が実施され医療面でも安心です。他科受診も対応しております。職員全員、質の高いケアを目指し個人の尊厳を守りながら、暖かみのある家庭的な生活が送れるような施設作りを目指しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念は、開設時に職員全員で考えた「温かみのある家庭的な生活が送れるようにお手伝いします」を掲げている。家庭的な雰囲気を大事にし、ゆっくりとした何時もと変わらぬ生活が過ごせる様に心配りをして支援に努めている。利用者が、洗濯物を干す、たたむ、雑巾を縫う等当たり前にやってきた事を、寄り添い声掛けをする事で自立を支援している。出来る事がまだまだある、この事に職員も気付きケアの取り組みに工夫を重ねている。独自作成したプログラムにより、「ケアの在り方、接遇、記録等」42の項目について、年3回5段階の自己評価を行い、当初の目標に対する振り返りと次回の目標を設定して、意識を高めて業務とサービスに活かす仕組みが出来ている。施設交流のあすなる祭りでは、他の施設の入居者が演じる劇「大きなかぶ」を見学する事で、楽しみながらも刺激を受け、演じる事の楽しさが持てる取り組みを検討する事となった。理念に基づいた温かみのある家庭的なサービスを支援し、独自のプログラムによる自己評価と目標設定により、全職員が質の向上に取組んでいる姿勢を評価したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自分たちで作った理念を名札にはさみ、常に目にする事ができその理念を目標とし取り組んでいる。	理念は、開設時に職員全員で考えたものである。管理職と職員は理念に対する意識を共有化して、支援に活かしている。家庭的な雰囲気を中心に、ゆっくりとした生活が過ごせるよう支援する中で、理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入し地域の活動に参加している。外出時、挨拶をかわしている。	自治会に参加し、ゴミ拾いや行事を通じ地域との繋がりを深めている。苑内の運動会には、自治会の働きかけで子供たちが参加し、利用者との交流を楽しんでいる。佐原の祭りに出かけ地域との交流を支援している。他施設間との交流を図る目的で、あすなろ祭りに参加し利用者は刺激を受け喜んでいた。	管理職は、利用者があすなろ祭りに向けて、ハンドベルを練習し演じる楽しみを持つことができるよう企画している。実現に向けた取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて	運営推進会議などの参加を呼びかけ認知症の方の理解を得る場を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を行い日常生活の状況の報告を行っている。意見を参考にしサービスの向上に努めている。	運営推進会議は、年間スケジュールを事前案内して2ヶ月に1回開催している。利用状況、研修報告と次回の予定を伝え、緊急時の対応や感染症対策等の意見を運営に反映している。また、民生委員から地域情報を受け、地域との繋がりに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月、1回市の相談員の訪問で、入居者様と直接お話していただき、ホームの雰囲気などを感じてもらいまた、取り組み状況など伝え、それを相談員が市に報告している。事故報告、待機状況も遅延なく報告している	市の担当者とは、運営推進会議や研修会を通して情報提供と意見交換がなされている。消費税等運営上の相談を通じ連携を密にしている。市の研修には積極的に参加し、感染症予防や認知症対応について学び、サービス向上に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、玄関の施錠はしていない。身体拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束はしないケアを行っている。玄関は開いており、利用者は自由に外出し、職員は見守り付き添い支援している。また、床に布団を敷いて、立ち上がり時ふらつき防止の工夫がなされている。利用者の生活歴による行動から理由を汲み取って、どうしたら良いのかを考えてケアの実践に活かしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に努め、虐待が起こらない環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性の高い方については話し合いを行う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を心がけ不安や疑問点を解消できるよう話し合いを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話連絡、面会時等で意見や要望を聞き話し合いを行っている。	運営推進会議において家族代表からの意見や要望は、議事録で共有化し協議して運営に反映させている。また緊急時の対応について、家族との連絡や対応方法を話し合っている。家族の来訪時には管理者が要望を聞き、来訪の少ない家族には、変化があった時の状態を報告し、要望も聞いて安心感を与えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段の業務内、申し送り時に意見や提案を聞き話し合いをおこなっている。	職員は、業務をどう改善するか意見を申し送りノートに記入し、管理職と話し合っている。ユニット毎にカンファレンスを開催して、ケアの在り方を統一し、利用者に合わせた支援が行われている。独自の職員研修プログラムにより、42の項目の自己評価を年3回実施し、目標への振り返りから意識を高めて業務とサービスに活かしている。	研修プログラムによる自己評価と目標の振り返りのシステムを大きく評価します。さらに一歩進めて、個人からユニット単位としての目標設定とその評価を共有し、次に目標へと繋げる取り組みが望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の目標をたててもらい向上心をもって働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は必要に応じて参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させている	地域が主催しているものに積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困っていること、不安に思っていることを聞きながら安心して生活が送れる方法を考え支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見、困っていること、不安な思いを聞きながら支援に繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	受診や他のサービスが必要とし判断した場合、スムーズに利用できるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自分で出来ることはご自分でやって頂き、今までの生活を大切にしながらその方にあった支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度お便りをだし、状態を共有している。面会時にはゆったりと過ごして頂けるような環境作りをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の理解や協力に基づき、馴染みの方の面会や希望の場所への外出など支援している。	入所時に家族から馴染みの場所を聞いて、外食や釣り等を少人数のグループに分けて車で的外出支援を行っている。家族には外出の協力を依頼し、祝い事や法事等の外出や外泊が行われている。管理職は友人や知人の来訪を歓迎し、お茶を飲みながら話を聞き、家族に連絡をして関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格を把握し対立しないよう心掛けています。また、一人の時間も大切にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自宅へ帰ったあとのサービスなどの情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族に、日常生活についての希望を伺い、また把握が困難な方には表情や仕草等で心の声を聞き、希望に添えるよう支援をおこなっている。	家族から入所時や来訪時に、利用者の思いや希望を聞き把握に努めている。担当者は、日常の見守り中から行動の変化に気づき、個人ファイルに記入し、ケースカンファレンスで話し合っている。新しい入所者については、日常の生活での動作や表情を細かく記録し、センター方式に沿って話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、家族に伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、状況を観察・記録し状況の変化を把握する。ケアカンファレンスなどで現状の残存機能について話し合う。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見を取り入れたケアプランを作成している。	ケアプランは、家族の来訪時に意見を聞き、利用者からの意向や気づきを取り入れて作成している。ケアマネ、管理職、担当者がチームとして話し合い、家族と相談して対応を決めている。日々の変化をケースカンファレンスで話し合っその都度見直し、モニタリングにより6か月に一度は実施内容を検討して見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の状態を毎日、個別に記録し状況の変化の把握に努め、情報を共有し意見を出し合い実践やプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出、外食、買い物、通院などの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域が主催しているものを見学に出かけたり、参加したりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医の希望を確認している。また毎週の訪問看護、往診の際の状況も記録しており受診時に適切に病状を伝えられるよう心掛けている。家族には、その都度連絡、報告している。	入居時にかかりつけ医の希望を聞き、引続きの受診を支援している。提携病院による往診の情報を提供して、選択がなされている。家族の付き添いが出来ない時は、職員が今の状況を連絡し、受診後にノートに記録して受診報告を行っている。緊急時は、家族と相談し主治医の指示により、県立病院と連携して対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の様子を記録し、訪問看護師に伝え、相談・指示を仰いでいる。必要に応じて受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ソーシャルワーカーや主治医、担当看護師と連絡を取り合い、情報を共有、相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に話し合い、書面にて説明し同意・納得して頂いている。	入所時に重度化及び看取りについては、医師・看護師の体制、看取りの医療行為、内容と実施について文章で説明し納得を得ている。管理職は、利用者の状態が徐々に低下していく状況を家族と話し合い、認識を一致させている。変化が在る度に、主治医や家族と相談をして支援がなされている。看取りのシステムはあるが、医療機関との連携はこれからとなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応の方法を常に目につく場所に掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力のもと、いろいろな場面を想定しての消防避難訓練を行っている。	消防訓練は年2回実施し、消防署員から早期の利用者の確認と職員の役割分担の指示があった。夜間火災を想定し、初期消火の失敗から消防署への連絡と2ユニットが連携しての避難誘導を実践しながらに行なわれている。火元の日々の点検はを検査チェック表に記録し、安全確認の対策が取られている。	管理者は、災害訓練の重要性を強く認識しており、回数の増加と抜き打ち訓練等の実施が望まれる。また併せて、職員連絡網を活用しての、伝達訓練の実施も望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的に接遇研修を行い、日頃より指導している。	接遇については、外部研修に全職員が参加し、知識と気づきを得るため強化しており、サービスの質の向上に繋げている。言葉遣いは尊厳に配慮し、さん付けの声掛けや自身の立場に置き換えて考える事を意識させている。個人情報の開示に関して、生活状況のお知らせや施設内掲示の写真掲載は了解を得て行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の意思や思いを伝えやすい環境作りを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間にとらわれず、一人一人のペースにあわせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の好みに応じ、必要ならば買い物と一緒に行き自分で選んだりもしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に応じて野菜の皮むきや、おやつ作りを手伝って頂いている。	栄養面で偏らないバランスの取れた食材を、利用者に合わせて美味しく食べれる工夫をしている。利用者と同じ目線で見、気配りのある声掛けをし、時々席次変えをして楽しく食事が出来る環境を整えている。皮むきや下膳を自ら行い、おやつ作りやケーキの飾りつけをして楽しんで、今ある力を活かす取り組みが行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表、食事チェック表を活用し個々に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行って清潔を保つように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて個々の排泄の状態を把握し、適時誘導し自立排泄の支援を行っている。	排泄チェック表、水分摂取表から時間や回数を確認し、声掛け誘導により自立排泄を支援している。訴えない人も、しぐさや気づきから少し早めの誘導により、トイレでの排泄が行われている。声掛けと見守りにより、プライバシーと尊厳には、十分配慮した支援を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて個々の排便の状態を把握し、食事量や水分補給を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調やその日の状況、希望に応じて対応している。洗髪、洗体は個々の能力に応じて支援している。	体調や状態を確認し、声掛けをして希望に沿った入浴を行っている。利用者のペースを大事にして、出来る所は自らが行き、手の届かない所は支援している。気分によって入浴が出来ない時は、無理をせず気分を変える工夫をして対応している。打ち傷には気を付け、肌の乾燥は保湿剤を塗って防止に努め、皮膚トラブルに配慮した支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具等の洗濯、布団干しなど気持ち良く休んで頂けるように支援し、清潔を保つように努め個々の状況に応じ休んで頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効用や副作用を主治医に確認している。服薬の際には職員2名で確認し間違いのないように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作り、掃除等を手伝って頂いたり、嗜好品を買いに行ったりして楽しんで頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物など個々の希望に応じている。地域の祭りに見学に出かけたり、外食や季節ごとの花などを見学したりしている。	買い物は、すぐ近くのスーパーに散歩を兼ねて出かけている。おやつ等の好きな物を、自分で買って感覚を生かす工夫がなされている。地域の佐原祭りや桜見学で季節を感じ、外での食事は大きな楽しみとなっており、笑顔が溢れた写真からも窺えた。外に出れない人は、職員と話をしながらテラスで椅子に座ってゆっくりとした時間を過ごしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望、家族の意向を伺い支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の要望に応じている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング等に季節の飾りつけ、外出時の写真などを掲載している。	カレンダーを飾り食事のメニューに日付けを入れ、ちぎり絵や切り絵を季節毎取り換えて、何月何日を意識する工夫を行なっている。また、笑顔の写真を飾って、外出の思い出を忘れない様にしている。ソファや仲の良い人との位置も時々変えて雰囲気づくりをし、気持ちに配慮した居心地の良い空間づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファなどで気の合った利用者同士で話をされたり、ゆっくりくつろげる場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ物を持ってきて頂き、居室は使いやすいよう設置、写真やお花等で飾りつけをして頂いている。	入所時に必要なものを一覧表で説明し、安心して生活が出来るように支援している。慣れ親しんだ物を持ち込み、今までの家庭での生活と変わらないように配慮している。ベッドからふとんに変えて安全に暮らすためのアドバイスを行って心配りがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全面バリアフリーとなっている。トイレ、洗面所など解るようにしている。		